

35	都市整備局	選手村の整備
事業概要	<p>都心から近く海に開かれた立地特性を生かして、子育てファミリー、高齢者、外国人など多様な人々が交流し、いきいきと生活できる、東京2020大会後のレガシーとなるまちづくりを進めている。</p> <p>加えて、水素をまちのエネルギー利用として先導的に導入するなど、環境先進都市のモデルとなるまちの実現に向けた取組を進めている。</p> <p>1 晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業</p> <p>東京2020大会の選手村の整備と大会後のレガシーとなるまちづくりとして、平成28年4月に着手した。</p> <p>大会時には選手用の宿泊施設として一時使用し、大会後には民間の分譲住宅となる建物等について、特定建築者制度を導入し、民間事業者の資金と開発ノウハウを活用して整備を進めている。</p> <p>2 選手村地区エネルギー事業</p> <p>新技術の活用により、快適性とエコな暮らしの両立を図るとともに、災害時の自立性を確保するなど、環境先進都市のモデルとなるまちの実現を目指している。</p>	
これまでの経過	<p>平成25年9月 2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開催都市が東京に決定</p> <p>平成26年12月 「選手村大会終了後における住宅棟のモデルプラン」公表</p> <p>平成27年1月 環境影響評価書を提出</p> <p>平成27年3月 東京2020大会選手村及びレガシー検討に係る事業協力者の決定</p> <p>平成27年12月 「2020年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－」策定</p> <p>平成28年3月 「東京2020大会後の選手村におけるまちづくりの整備計画」公表</p> <p>平成28年4月 晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業に着手</p> <p>平成28年5月 道路等の都市基盤整備に着手</p> <p>平成28年7月 選手村エネルギー事業計画の検討に係る事業協力者の決定</p> <p>平成28年7月 特定建築者予定者を決定</p> <p>平成28年7月 「選手村地区エネルギー検討会議」設置、第1回開催</p> <p>平成29年1月 建築工事に着手</p> <p>平成29年3月 「選手村地区エネルギー整備計画」及び「事業実施方針」公表</p> <p>平成29年9月 「選手村地区エネルギー事業」事業予定者の決定</p> <p>平成30年2月 「選手村地区エネルギー事業」基本協定の締結</p> <p>平成30年3月 「選手村地区エネルギー事業」水素パイプライン工事着手</p> <p>令和元年5月 「選手村地区エネルギー事業」水素パイプライン（大会前敷設分）工事完了</p> <p>令和元年7月 特定建築者が選手村マンション「HARUMI FLAG」の分譲を開始</p> <p>令和元年12月 大会時に必要な都市基盤整備及び建築工事完了</p>	

現在の進行状況	<p>1 晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業 道路などの都市基盤の整備と、民間事業者による選手の宿泊施設となる住宅棟などの工事を実施</p> <p>2 選手村地区エネルギー事業 水素パイプライン敷設工事を実施</p>		
今後の見通し	<p>1 晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業 令和3年7月～ 東京2020大会、大会後改修工事 令和4年度（目途） 板状棟・商業棟竣工 令和5年度（目途） タワー棟竣工 令和6年度 事業完了予定</p> <p>2 選手村地区エネルギー事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水素ステーションや水素パイプライン等の工事を進捗させ、脱炭素社会の先駆けとなるまちづくりを着実に進める。 ・大会時には、選手村宿泊施設の共用部の電源の一部として、福島県産の水素を活用して発電した電気を供給するなど、多様な人々の関心が高まるよう、プレゼンテーション事業として、水素利活用をショーケース化する。 		
問い合わせ先	都市整備局 市街地整備部 再開発課	電話	03-5320-5114